

---

# 私

絵爾久万

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
私

【Nコード】  
N4589B

【作者名】  
絵爾久万

【あらすじ】  
私は誰？私は私以下でも以上でもない。そんな私はいったい誰なのだろう。

その日の授業は体育祭の予行演習。

炎天下の校庭で私達は何度も何度も体育教師の指示通りに一糸乱れず行進をしなければならなかった。

私は、北の王国の軍の一員にでもなったかのような気がしていた。

突然強い目眩に襲われた。

目の前の景色が真っ暗になり意識が遠のいていった。

気が付くと私は保健室のベッドの上に横たわっていた。

私が起きたのを察してか、校医がベッドの脇にやってきた。

「起きた？由香さん、気分はどう？」

私は「大丈夫です」と答えた。

「軽い貧血と脱水症状を起こしていたみたいね。体育祭の練習きついでしょ？」

「ええ、まあ・・・」

「きちんと栄養と睡眠とってね」

「はい」

「ひとりで帰れる？」

「はい」

私は校門を後にした。もうすっかり日も暮れていた。

家に帰った。

「お帰り、由香。今日は遅かったのね。」  
母が言った。

「うん・・・」

なんだか今日はすごく疲れていて食欲もない。あれこれ説明するのも面倒なので、私はすぐに2階の自分の部屋へ入った。

ベッドの上でぼんやりしていると、また激しい目眩に襲われた。私はそのままベッドに倒れこんだ。

気が付くと私は煌びやかなバーの中にいた。  
酔っ払った客が奇声を発している。

「あーら、イサオちゃん。今日はずいぶん遅い出勤ね」  
いかつい顔に無理やり化粧を塗りたくったママが言った。

「3番テーブルのイボガエルどもがさっきからお待ちよ。早く行ってあげて」

席に着くやいなや、私はイボガエルどもの生臭いキスの嵐にあった。

私が我慢できたのはキスと共に、私の胸元やズボンのポケットに  
札束がねじ込められるからだ。

私はイボガエルの1人にいきなりまたぐらを掴まれた。

突然激しい目眩に襲われた。

気が付くと私は林の中にいた。夜なのに林の中がよく見渡せた。  
私は木の枝の上で暫くじっとしていた。

バサバサバサバサ・・・

羽音が聞こえ、私の隣りに何かがとまった。  
振り向いてよく見ると、ほの暗い林の中で大きな2つの目玉が光っていた。

フクロウだった。

フクロウは暫くじっとしていたが、ホーッ！と一声鳴くと、すぐにまた飛び立って行った。

私も真似をして、ホーッと鳴いてみた。  
いい具合だった。

私も両手を広げ、思い切りジャンプを試してみた。

バサバサバサバサ・・・

激しい目眩に襲われた。

気が付くと私は、見なれぬ部屋のベッドの中にいた。天井も壁も真っ白だった。窓には鉄格子。

白衣の男と看守が話していた。

看守は泣いているようだ。

白衣の男は慰めるような仕草で、看守の肩を叩き部屋を出て行った。

私は今、脱走を試みている。

こんな刑務所の中の病院で生活するのは、もううんざりだ。

早くシャバに出て、自分の意思で自由に好きなことをしたいのだ。  
幸い、今この部屋には、か弱そうな中年の看守の女と私の二人だけ。

女は花瓶に花を差している。

今ならヤレる。

私はベッドを抜け出し、テーブルの上に無造作に置いてあった鋏を掴み

看守めがけて振りかざした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4589b/>

---

私

2011年1月15日21時27分発行